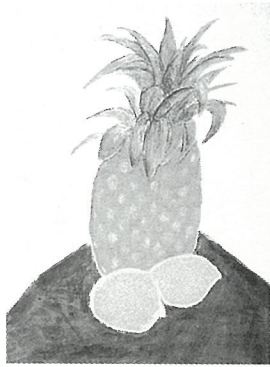




深田 翔くん



『果実』

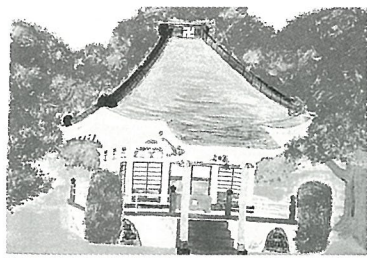
※絵の具だけでなく水彩色鉛筆で影や微妙な色の違いを工夫しました。



大木 惇巧さん

の実時り

※私は、はらいとはねがかすれないように書いていねいに書きました。



『巡礼堂』



伊藤 美香さん

※お寺の雰囲気を表すのに苦労しました。



大木 卓真くん

の実時り

※右はらいの所や実の点の所を気つけた。右はらいはよかったです。

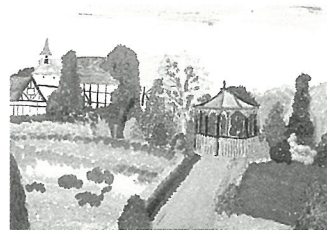


貝川 敦士くん



『マーライオン』

※夏休みに行ったシンガポールでの思い出をこのマーライオンにこめて描きました。



『ローズマリー公園にて』



向後 珍那さん

※夏休みの長い時間を利用して、一生懸命書きました。

あつまれみんなの力作



ひかり俳壇



川島 孝夫 (二又)
桃の花尼僧の掃ける大伽藍
修行僧らしい若い尼僧が黙々と掃き清めている。尼僧と桃の花が対応の妙を見せている

伊藤 雅子 (尾垂)
乳呑み児の笑みふくよかに桃日和
乳呑み児の笑顔は作者の嬉びともなった。「桃日和」が作品を活かしている

川島 重一 (尾垂)
培いし桃花も茶毘の供とせり
故人が愛育して来た桃の花を棺へ入れたと言う行為が共感を呼び高句となった

布施 和代 (二又)
吹き降りに源平桃の花明り
大木 素風 (二又)
寝たきりを見る娘にきびし余寒かな
鈴木とし子 (宝米)
桃咲くや若き子科練兵の墓
山崎 てい (二又)
碧空や用水に映ゆ桃の花
伊藤 幸枝 (尾垂)
四国路の山裾桃の花盛り

短評
椎名しげる
評者吟 桃日和今日より傘寿の旅はじまる